

民主島根

2024年
4.28
第1447号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

4月28日の政治戦勝利へ総力 野党勝利で自民の牙城崩そう

松江 穀田衆議員、村穂党副委員長、亀谷衆院2区から支援訴え

日本共産党の穀田恵二国会対策委員長・衆院議員は13日、松江市の県庁前で開かれた街頭演説で、「自民党の牙城を崩すため、共産党は野党の本化を行った。立憲民主党の元衆院議員の勝利に向けて総力を挙げる」と訴えました。

穀田氏は、自民党の裏金問題や統一協会との癒着を明らかにしたのが、赤旗のスクープと共産党の論戦だと紹介。「民主主義を前進させる共産党を伸ばす以外に政治を変える道はない」と力を込めました。

自民党が幕引きを図ろうとしている裏金事件について「国民の圧倒的多数は、説明責任が果たされたとは思っていない」と述べ、「国会で関係者の



宣伝する(宣伝カー上、右から)亀谷、穀田、村穂の各氏と尾村利成県議。プラスターなどでアピールする地方議員ら(県庁前)



出雲市での集い(16日)

証人喚問を求めていく」と訴えました。村穂江利子党副委員長は「8月に予定される島根原発2号機再稼働を食い止めよう」と呼びかけました。

大平氏が約40人と対話・交流
日本共産党の大平よしお衆院中国比例予定候補は16日、島根県を皮切りに「比例を軸に、希望とどける真ん中世代はるかぜキャラバン」をスタートさせました。

大平氏は、出雲市(16日)と松江市(17日)で開かれた党女性後援会や職場支部などの集いで、計約40人の青年や子育て世代、労働者らと語り合いました。

日本共産党は島根原発2号機の再稼働中止に全力をあげます

2024年4月25日 日本共産党島根県委員会

能登半島地震は、地震・津波などの自然災害と原発事故が同時に起きる原発震災(複合災害)時の避難が難しいことを明らかにしました。福島原発事故から13年、事故はいまだに収束していません。日本共産党は、原発推進の岸田自公政権を退陣に追い込み、中国電力が今年8月の再稼働をねらっている島根原発2号機の再稼働を阻止し、原発ゼロの日本、島根をつくるために全力をあげて奮闘します。

■尾村県議を先頭に、5月中旬に石川県・志賀原発を現地調査

北陸電力・志賀原発では、観測した揺れの加速度が設計上の想定を一部で上回り、変圧器が故障し、使用済み核燃料プールの冷却が一時的に停止する事態が発生。放射線量を監視するモニタリングポストも一部測定不能となりました。能登地震では、避難ルートの上り下りや沿岸の道路で隆起や陥没が発生し、土砂崩れなどで通行不能となり、全壊をはじめとする住家被害が7万棟を超え、屋内退避ができない事態も生まれました。

日本共産党島根県委員会は、尾村利成県議を先頭に、村穂江利子・党副委員長、亀谷ゆう子・党県常任委員(衆院島根2区)、遠藤秀和・党県議団事務局長の4氏を代表団として、5月中旬(3日間)に能登半島、志賀原発(石川県志賀町)の現地調査に入ります。志賀町役場の担当者や地元の町議との懇談をはじめ、医療・福祉施設や避難所などを訪問し、住民の声を聞き取ります。

■同じ半島部の島根半島でも住民から聞き取り調査

党県議団と松江、出雲の両市議団として、島根半島(鹿島町、美保関町、島根町、出雲市地合町)の住民の声や要望を聴取する活動に取り組みます。宍道断層が動いた際、3地区の孤立集落が発生する被害想定が立てられています。孤立が想定される集落への調査も実施する予定です。また、県防災部の案内で、島根半島部の自衛隊等による空路支援に必要な「ヘリポート等の現況調査」の現状を視察します。6月議会では、これら調査をもとに島根原発30*。圏内の党議員が、島根原発2号機の再稼働を許さない論戦を行います。また、広島市の中国電力本社や原子力規制庁や経済産業省などへの申し入れについても検討しています。

■能登半島、志賀原発と島根半島聞き取り調査の「報告会」を開催

志賀原発をはじめ、島根半島部で実施した調査結果の報告について、松江、出雲の両市で「報告会」を開催します(開催日時は後日、お知らせします)。

■「報告会」も力に、解散・総選挙で自民党政治を「もとから変えよう」

4月28日の政治決戦での野党の勝利で、岸田政権を解散・総選挙に追い込みましょう。総選挙では、日本共産党の躍進で自民党政治を終わらせることが、島根原発の再稼働を食い止める力になります。原発ゼロの確かな議席・大平よしのぶ衆院議員(衆院中国比例)を必ず国会へ押し上げようではありませんか。

「子育ての悩みや学校トイレの環境整備の問題、診療報酬改定で経営が深刻な危機に直面している実態など、不安や怒りの声が相次ぎました。「学費、教育費の負担が重すぎる」(子育て世代)、「給料を上げてほしい」(ケア労働者)との声に対し、大平氏は、自民党への企業献金によって、大企業の目先の利益だけを追求する政治が行われているとして「軍事費増額ではなく、社会保障予算を増やす政治を」の声を一緒に上げていこうと呼びかけ。最後に「自



松江市での集い(17日)

公政権が続くことは、不安が続くことになる。今度こそ共産党の議席を勝ち取り、みなさんの代弁者として頑張りたい」と決意を述べました。出雲市での集いには、亀谷ゆう子衆院島根2区予定候補、後藤由美、吉

井安見の両市議も同席。松江市の集いには、橋ふみ市議、村穂江利子党副委員長が参加し、一緒に交流しました。

大平よしのぶをスマホでチェック

QRで各種SNSへGO!